

『情熱、熱意、真摯な態度』 ～ 『器量の持ち主』 ～

2024年8月31日午前中は、早稲田大学での講座【ジャンル 人間の探求:がんと生きる哲学 医師との対話を通して『がん』と生きる方法を考える。】に赴いた。テキストは『なぜ、こんな目にあわなければならないのか ～ がん病理学者が読む聖書「ヨブ記」 ～』（2023年10月15日 いのちのことば社発行）を使用した（添付）。今回は【第1章：『突然の病や事故が、なぜふりかかるのか』】の箇所から音読しながら進めた。多数の質問あり大変充実した時となった。

午後は、【東村山がん哲学外来 メディカル・カフェ 10周年記念会（東村山市市民ステーションサンパルネ;第2代代表：阿部友香氏）に向かった。大変貴重な時となった。【東村山がん哲学外来メディカルカフェを2014年8月開設された大弥佳寿子氏】は、2023年11月28日にご逝去された。涙無くして語れない。

『樋野動物園』では、大弥佳寿子氏は『羊』である。ユーモアに溢れる人物であった。【『情熱、熱意、真摯な態度』&『無邪気に、喜んで、小さなことに、大きな愛を込める』&『役割意識と使命感』】の実践者であった。また、『器量の持ち主』でもあった。『器量』といえば、『挑太郎』を思い出す。鬼ヶ島遠征の物語は、子供時代、村のお寺の紙芝居で よく聞かされたものである。

『挑太郎』は『犬・雉・猿』という性質の違った伴を まとめあげたと学んだ。【世に処する人は『性質の異なった者を 容れるだけの雅量』を もたなければならない】と新渡戸稲造（1862-1933）は『世渡りの道』（1912年）で述べている。

その後、帰宅して【南原繁研究会第13回夏期研究発表会】にZoom参加した（添付）。筆者は【南原研究会の活動を振り返って：創設期の思い出を中心に】の発表の機会が与えられた。2004年にスタートした南原繁研究会【初代代表：鴨下重彦先生（1934-2011）、東京大学名誉教授、国立国際医療センター名誉総長）、第2代代表：加藤節先生（成蹊大学名誉教授）】の3代目の代表を 2019年南原繁（1889-1974）生誕130周年を祝し、筆者は仰せつかった。今年（2024年）は、『南原繁研究会創立20周年 & 南原繁没後50周年』でもある。

